

- 四、本尊 阿彌陀如來
- 一〇、檀家 無し
- 五、開基開山 永安院圓空光慶居士
- 一一、年中行事 別に無し
- 六、宗派 淨土宗西山派
- 一二、寺領 無し
- 七、寺寶 本尊(恵心僧都の圖と傳はる)
- 一三、寺格 専修院末庵
- 八、古書 無し
- 一四、建造物 庫裡本堂五間に四間半のもの一字
- 九、歴代住職
  - 1 永安院空光慶居士
  - 2 天空智賢上人龍庵
  - 老和尚
  - 3 戒空隨教法寛尼
  - 4 教空智秋
  - 貞隨法尼
  - 一五、境内佛堂 無し

### 第五項 眞言宗

#### 一、陽學院 (長久院受持)

- 一、所在地 大口村大字小口字下島一番地
- 二、創立 不詳
- 三、山來 大久地城主織田廣近箭筈城築城の折三體の藥師如來を守護佛として祀つた其の一體を本尊とすとあるも

何時の頃如何なる變遷を經過して現在に至つたかは全く不明である。

- 四、本尊 藥師如來 木質座像にて高さ約一尺今は黒檀の如く黒ずんで非常に古いもの、様である。
- 五、開基 腹籠藥師如來 高さ約二寸
  - 一〇、檀家 無し
- 六、開山 松月妙林優婆夷 三力院空天觀理優婆塞
  - 一一、年中行事 舊十月八日縁日
- 六、宗派 眞言宗醍醐派
  - 一二、寺領 境内百六十一坪
- 八、寺寶 無し
  - 一三、寺格 不明
- 古書 無し
  - 一四、建造物 本堂三間四尺に一間半のもの一字
  - 庫裡六間に三間のもの 一字
- 九、歴代住職 全く不詳 現在は丹羽郡古知野町出身の  
大池徳次郎留守居番

### 第三節 神道

#### 一、天理教御供所宣教所

- 一、所在地 大口村大字豊田南屋敷七五七六番合併地

二、沿革 當教會の始めは明治三十一年頃から親教會である名古屋市の浪越出張所長山田庄平及役員稻山徳次郎等の導によつて江口治兵衛、江口瀧次郎等信仰に入り翌四十二年社本音次郎、社本要四郎、社本兵左工門等が信仰に入り同氏等結束して相談し治兵衛を講本とした。其の後數名の信徒を募つて集談所を開いた。後治兵衛が職を辭してから瀧次郎が講本となつた。四十二年同氏宅地内(現在の所)に神殿を建て集談所を移した。爾來信徒の増加に伴つて教會設置の必要が生じ江口忠一、社本要四郎、澤田音吉、社本市之助、社本金兵工、吉村隆治、社本金松、社本平右工門、今枝玉藏、村田甚一郎、畑田甚一等結束して大正元年十月神殿の増築に取懸り翌二年諸準備を整へ三年教廳の認可を得た。翌二月管長の添書と共に地方廳に出願した。三月廿四日付て時の郡長岸田浩から村長野田正昇を通じて許可の指令を受けた。

三、祭神 齊神は人類を始め宇宙萬有を創造する根本の神であつて實在の生神である國常立の尊(月輪)面足の尊(日輪)國狹槌の尊、月讀の尊、雲夜見の尊(豐斟尊)惶根の尊、大食天の尊(大日靈女尊)大嘗邊尊、伊弉諾尊、伊弉册の尊(以上を總稱して天理王の尊と言ふ)

教祖は謚名を眞道彌廣言知女の尊と言ひ(生存中は中山美伎子)齊神の十柱の神(天の將軍)が天保九年十月二十六日朔に天降りになつて教祖四十才から昇天九十才迄五十年間高弟本席(伊降伊藏)に二十年前後七十年の間繼續的に天の啓示があつた。

四、信徒及其の主な所在地 教師數男十八名女十名計二十八名、教徒數六十八名がある。尙東京、京都、岐阜の所々に

散在してゐる。春明、古知野、布袋、三ッ淵に部屬教會があり集談所としては名古屋、岩倉、外坪、玉ノ井、佐野、入鹿にある。

五、教會所屬 天理教甲賀大教會中野分會浪越支教會御供所宣教師

六、行事 毎月十五日を月次祭として祭典を行ひ春秋二季に大祭を行ふ。天理教青年會御供所支會を置いて婦人會と共に會務の庶理をし五日、廿五日を説教日としてゐる。

七、建造物 敷地は二百六十六坪は財團法人、建物の神殿三十三坪附屬物二十六坪の目下財團法人手續中

八、宣教師長 社本種次郎

## 二、葦山宣教師

一、所在地 大口村大字秋田字替地東郷前十八番地

二、沿革 現所長が大正二年甲賀大教會講習會を修了して後續いて天理教校別科に入學し九年現所長を命ぜられた後専心布教に勉めた功大であつて現在權中講義にあつて大正九年地方廳の許可を得た。

三、祭神 前者に同じ

四、信徒及其所在地 信徒數約百二十名

五、教會所屬 天理教甲賀大教會中野分教會浪越支教會葦山宣教師

- 六、行事 毎月十一日に月次會を行ひ春二月十一日には大祭を行ふ。尙婦人會青年會を毎月一日廿一日に開いてゐる
- 七、建造物 神殿三十餘坪
- 八、宣教師長 鈴木小三郎

### 三、尾國宣教師所

- 一、所在地 大口村大字大屋敷字向野十八番地
- 二、沿革 當教會は明治三十年代に大屋敷の丹羽長三郎、安藤愛一郎、野田萬平、等大屋敷講社を結成して天理教信仰の靈火を點じた。後次第に信者の増加を見た。遂に大正十四年教會設置の運動が起つて同年九月十七日管長の認可を得、更に地方廳に出願の結果大正十五年十一月一日附にて許可の指令を受けた。昭和六年擔任教師鈴木徳三郎死亡して教會の中心を失つたが現在では復活伸展に努めて居る。
- 三、祭神 前に同じ
- 四、信徒
- 五、教會所屬 天理教中賀大教會中野分會浪越支教會尾國宣教師所
- 六、行事 月次會は毎月十二日 説教日は二日と二十六日である。
- 七、財産 無し

- 八、建造物 無し

- 九、宣教師長 瀬川丈吉

### 四、天理教丹羽宣教師所

- 一、所在地 大口村大字余野僧都庵八一八二番地
- 二、沿革 大正三年六月十日(地方廳認可)  
現宣教師長王置儀三郎明治三十八年二月東春日井郡小牧町天理教小牧支教會から余野、吉田彌三郎方へ來て單身布教に従事すること約四年間、明治四十二年一月、一家一棟を借り受け祭神を鎮座し集談所と改めて熱心に布教した。其後大正元年當字南屋敷川向三十二番地に移り追々と信徒が増加したから役員信徒協議の結果教會の設置の相談が纏つて請願の手續を取り大正三年六月十日付を以て認可を得た。夫から約十四年間布教に苦心經營の結果宣教師の狹隘を感じる様になり昭和二年十月布教の便利を計るため當字僧都庵の現住所へ移轉し現在に至つたのである。

- 三、祭神 前に同じ

- 四、信徒及び主な所在地 信徒數 一二〇戸 信徒所在地 大口村、扶桑村、古知野町

- 五、教會所屬 天理教名京大教會愛知分教會小牧支教會丹羽宣教師所

- 六、行事 毎月四日 月次祭並に説教執行 毎月十五日 婦人會 春季秋季の皇靈祭三月四日及び十月四日は大祭日
- 七、財産 教會敷地 二七三坪
- 八、建造物 教堂四間に七間のもの一宇 附屬室四間に五間半のもの一宇 神饌所
- 九、宣教師長 玉置儀三郎

#### 五、光榮教會

- 一、所在地 大口村大字小口字郷中十四番地
- 二、沿革其他 本教會は天地教會御徳社の所屬にして大正五年二月十三日其のすじから認可されたものである。教師近藤治三郎が熱心に布教に努めた爲現在六十餘名の信徒がある。毎年舊二月初午の日に春の大祭を行ふ。現在建造物としては教師詰所、教會兼宣教師、祈禱所等がある。境内に秋葉大権現を祀り舊十一月十六日に秋葉大祭が行はれる。

### 第四節 其他の教會

#### 一、御嵩教照王教會

- 一、所在地 大口村大字豊田二百參拾二番戸
- 二、沿革 當教會は未だ教義を布演して儀式を執行する布教機關の設備が無い故信仰の目的を遂行すること出来ず有志等之を遺憾として多數信徒の希望によつて之れが總代を選んで擔任取締を推薦し教會所を設置して教義を普及せんとした。遂に其の目的は達せられ大講義社本嘉兵工を推薦して大正三年三月前記の個所に教會を設け大いに布教に勉めた。然るに不幸にして教會長一家は病魔に襲はれ大正十年十一月斷絶したから信徒協議の結果大字豊田百六十三番戸教會副會長大講義、大森甚太郎宅に移轉せられ祭儀が執行されて居つたが昭和二年頃から月次會を廢した、大森甚太郎は依然として信教の念厚く信徒の家を歴訪し又は祭儀を行つて公共の爲晝夜盡力して居る。

- 三、祭神 國常立尊 大己貴尊 少彦名命を主神として天神地祇並に産土神を配祀してある。
- 四、信徒及其重な所在地 大口村約二百五十名
- 五、行事 毎月五日を月次祭 三月二日大祭 十月三十日中祭 國祭祝日には祭儀を執行する。
- 六、宣教師長 大森甚太郎

#### 二、御嶽教會

- 一、所在地 大口村大字小口字郷中二〇九番戸